

植物とウイルス・神への信仰

主任司祭 小池亮太

二〇一九年十一月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は世界中に拡散し、二〇二〇年三月に世界保健機関は「パンデミック（世界的大流行）」とみなせる」と表明しました。イタリアをはじめ各国のカトリック教会は感染症の拡大に伴い活動を停止し、日本政府も四月になって緊急事態宣言を発令しました。

〈ウイルス〉には、動物ではなく〈植物〉に感染するものもあります。植物の病気を引き起こすものは、〈菌類〉〈細菌〉〈ウイルス〉に分類され、その中で最も小さいものが〈ウイルス〉です。遺伝情報とそれを守る殻しか持たない 〈ウイルス〉は、それだけで存在することはできず、植物の細胞に入り込んで生き延び、その細胞に自分を複製させます。そして、細胞が破裂すると増殖したウイルスが飛び出し、他の細胞に入り込みます。こうして、植物に感染したウイルスは五日から十四日で爆発的に増殖し、その影響で葉の縮れなどの病気が引き起こされ、植物はうまく生長することができなくなります。

当然、〈植物〉はウイルスに侵入されないように防御をしていますが、侵入されてしまうと、ウイルスにされるがままに従うと考えられてきました。しかし、侵入してきたウイルスが増殖をするために遺伝情報を守る殻を外すと、その遺伝情報を分解してしまう仕組みを植物は持っていることがわかりました。動物のように動いて逃げすることも免疫の仕組みもない植物が獲得したのは「侵入してきたものの遺伝情報を標的として分解する仕組み」でした。

ところが、多くのウイルスは、植物のこの防御の仕方をすでに知っていて、その仕組みを抑え込む物質を持っていることも分かったのです。

このように、感染して細胞の中で生き延び、増殖しようとする〈ウイルス〉と、感染しないように、感染しても増殖させないように防御する〈植物〉の間には戦いがあるのです。

このように見てくると 〈ウイルス〉は、人の心に入り込んでくる、〈恐怖〉や〈欲望〉とよく似ていることに気がつきます。

〈恐怖〉や〈欲望〉は、それだけで存在することはできませんが、人の心に入り込むことが

できれば、その人の心の中で生き続け、増大することができません。そして、その人の中で爆発的に増大すると、心が〈恐怖〉や〈欲望〉に支配されて、その影響で罪が生み出され、同時に、その人の心身の健やかさは失われていきます。

もちろん、〈人〉は、〈恐怖〉や〈欲望〉の恐ろしさを知っていて、侵入されないように注意しています。しかし、それをあざ笑うかのように〈恐怖〉や〈欲望〉は、どこからともなく心に侵入してきます。では、侵入したものを分解する防御の仕組みを人は持っているのか… 私たちの持っている〈信仰〉が、その役割を果たします。「神への信頼と畏れ」という〈信仰〉は、心を支配しようとするものを分解することができます。しかし、その〈信仰〉を抑え込む力を〈恐怖〉や〈欲望〉は持っている、その間に戦いがある… 感染症の拡大で〈恐怖〉に支配された人が、買い占めてしまったり、必要な物が手に入らなくなったり、〈欲望〉に支配された人が、その必要な物を高額で転売していることを伝えるニュースを聞きながら、このようなことを考えていたのです。